

とらじいさんの SSKA 冬

No.248・2025 1.15

おもな記事

新年のあいさつ	表2
活動の窓	4
年賀広告	10



小さな神社の初詣


特定非営利活動法人 東京腎臓病協議会
(NPO 東腎協)

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-14-8 中野ビル702号室 TEL03-3944-4048 FAX03-5940-9556
<http://www.toujin.jp/> E-mail info@toujin.jp

年頭に
あたって

会員の皆様が安心して透析治療を 受けられる環境確保に努めます。

NPO法人東京腎臓病協議会 会長 戸倉 振一



あけましておめでとうござ
います。会員の皆様には、穏
やかに新年をお迎えのことと
心よりお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス
感染症が感染症法上「2類
相当」から「5類」に移行し
たことにより、日常生活や社
会活動が本格的に回復した年
でした。当会でも感染防止対
策に留意しながら対面での活
動を進めることができました。

しかしながら、新型コロナ
ウイルス感染症は、季節を問
わず感染リスクがあり、特に
透析患者は重症化リスクが高
いことが引き続き懸念されて
います。また、軽症であつて
も透析施設内では時間的・空
間的隔離が必要となる場合が
あり、各患者会でコロナ禍以

前の活動を完全に取り戻すに
は、なお時間がかかるかもし
れません。このような状況を
踏まえた患者会運営を求めら
れている現状ではありますが、
腎不全医療に関わる問題解決
に向けた取り組みをさらに強
化し、会員の皆様が安心して
透析治療を受けられる環境の
確保に努めてまいります。

昨年、国が掲げる「全世代
型社会保障」構築のための医
療保険制度改革の一環として、
高額療養費の自己負担限度額
の見直しの検討が進められま
した。高齢化の進展や医療の
高度化、高額薬剤の開発・普
及等により高額療養費の総額
が年々増加（総医療費の6〜
7%相当）していることから、
自己負担限度額の見直し、所

得区分の細分化が提案されて
います。70歳以上で年収37
0万円以下の方の外来特例
（月額上限、年間上限）の引
き上げ案が含まれており、こ
の引き上げが実施された場合、
東京都の障害者医療費助成制
度（マル障）にも影響が出る
可能性があります。この件に
ついては、今後も動向を注視
し、必要に応じて情報を提供
してまいります。

また、高額療養費制度にお
いて透析医療費の自己負担が
軽減される特定疾病療養受領
証（マル長）、東京都の人工透
析に対する医療費助成（マル
都）は私たちにとって欠かせ
ない制度です。このような情
勢にあつてもこれらの制度が
継続されるよう全腎協と連携

して活動を進めてまいります。
慢性腎臓病（CKD）の早
期発見・早期治療・重症化予
防、透析患者のQOL（生活
の質）の向上、災害時に透析
医療を確保するための対策、
臓器移植や再生医療の推進に
ついては東京都や関係団体と
協力しながらこれらの取り組
みをより一層強化してまいり
ます。また、生産年齢の透析
患者就労率を上げる取り組み
も重要な課題となっています。
昨年全腎協の会員を対象に実
施された「生産年齢（18歳〜
65歳）の透析患者の就労に関
する調査」の結果を踏まえ必
要な対策を推進してまいりま
す。引き続きご支援、ご協力
を賜りますようお願い申し上
げます。

結びに、本年が皆様にとつ
て幸せと希望に満ちた一年で
ありますよう、心からお祈り
申し上げます、新年の挨拶とさせ
ていただきます。

東腎協の歩みと課題への対応

NPO法人東京腎臓病協議会 会長

戸倉 振一

先人たちの献身的な活動

NPO法人東京腎臓病協議会（東腎協）の前身である東京都腎臓病患者連絡協議会は、1972年11月19日に発足し、一般社団法人全国腎臓病協議会（全腎協）の前身である全国腎臓病患者連絡協議会とともに、「いつでも、どこでも、誰もが安心して透析を受けられる」社会を目指し、腎疾患患者の「命と暮らしを守る」ことを目的に活動を始めました。この理念は、先人たちの献身的な活動によって実現され、その環境を維持・向上させるため、52年間にわたり活動を引き継いでまいりました。

患者会活動の継続が必要

この環境を維持するとともに、高齢化に伴う腎不全医療の新たな課題に対応し、慢性腎臓病患者、透析患者、移植患者のQOL（生活の質）を向上させるためには、私たちの活動を継続していかなければなりません。

東腎協の発足当初の運営

東腎協の発足当初について、記録に残る1975年の第3回総会議案によれば、会費は1100円（翌年は2400円）で、透析施設患者会は20患者会、会費納入人数は下図に示すように608名でした。

予算は前期繰越金、会費、寄付金、請願カンパ、広告料を合わせて約233万円でした。事務局は役員の自宅に置かれ、事務局長は週3回の透析を受けながら仕事と事務局業務をこなす中、休むいとまもない状況だった、と機関誌『東腎協』第3号に記録が残っています。1974年11月からは全腎協の事務局開設に伴い同居する形で運営していました。

事務局強化と会員拡大

1986年には会費を3600円に値上げし事務局を独立させ1991年には会費を4200円に、1999年には事務所移転に伴い会費を5400円（全腎協1800円＋東腎協3600円）に値上げし事務局機能の強化を行いました。この間の役員の精力的な入会促進運動により東腎協の活動に共感し透析施設患者会の立ち上げが次々と行われ、会員数は右肩上がりが増

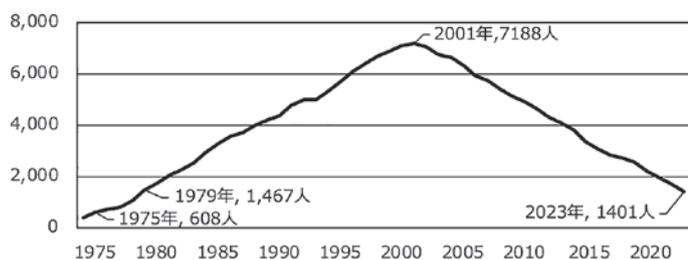
えていき、2001年には患者会数は113患者会に増え、会員数は7188人に達しました。

会員数減少の状況

2002年以降は透析施設の役員の高齢化や長期透析による合併症により、役員の成り手不足が顕著化し始め、患者会の解散が相次ぎました。

2023年には会員数1401人となっており、東腎協

東腎協の会員数(人)の推移



の発足5年目の1979年の水準と同程度なっています。透析施設の患者会役員の成り手がいないと患者会解散を余儀なくされる現状では、この状況は今後も変わらないと予測されます。

透析施設患者会の役割

このように会員が減少している現状ではありますが、透析施設患者会は、患者や家族同士の交流の場として重要な役割を果たしています。また、医療スタッフとの信頼関係を築き、より良い透析環境を作る上でも欠かせない存在です。透析患者がより良い生活を送るためにも、今後も可能な限り患者会の運営を継続していくことが望ましいと考えます。

財政基盤安定化の必要性

下図に発足当初からの収支・繰越金の推移を示します。
2002年以降、会員数の減少に伴い収入が減少し、そ

れに対応して事業の見直しや事務局経費の削減を進めてきました。しかし、支出が収入を上回る状況が続いており、不足分を繰越金で補填しているのが現状です。このままでは、繰越金の枯渇が懸念され、持続可能な活動が難しくなる恐れがあります。

そのため、最低限、事務局機能を維持するためにも、会費収入以外の安定財源を確保することを検討していく必要があります。

東腎協の存続のために

東腎協の基礎となる、透析施設患者会の運営を担う人材が不足している状況で、東腎協を存続させ運営を継続させていくためには新たな対策を考えていくことが急務となっています。

持続可能な活動に向けて

東腎協の活動を継続させるためには、会員の高齢化や患

者会役員の不足、財政基盤の弱体化といった課題に対する対応が必要です。

今年には以下の対策についての具体策を検討・実行し、東腎協の存続のための道筋をつけていきたいと思えます。

・新たな人材を確保するため、若い世代の透析患者や家族を対象とした啓発活動を強化し、患者会の魅力を伝える工夫をします。

・会費収入に依存しない安定財源の確保に向けて、企業や団体との連携、寄付の呼びかけなど多様な資金調達方法を模索します。

結びに

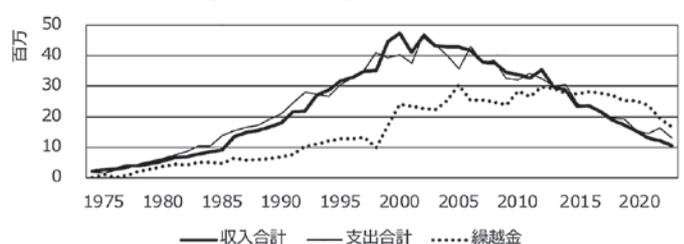
東腎協が52年の歴史の中で築いてきた成果と信頼は、先人たちの努力の結晶であり、私たちが受け継ぐべき貴重な財産です。

しかし、会員の高齢化や財政基盤の課題に直面する今、組織を存続させるためには新

たな発想と行動が必要です。

これからも患者やその家族の声に耳を傾け、透析患者がより良い生活を送れる社会の実現を目指して努力してまいります。一人ひとりのご支援とご協力が、東腎協の未来を支える大きな力となります。皆さまと共に新たな一歩を踏み出し、より良い環境を築いていきたいと考えています。これからどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

東腎協の収支の推移(単位:百万円)



ブロック長

新年のごあいさつ

多摩ブロック長

横溝 久美子

新年明けましておめでとう
ございます。

昨年中の皆様のご理解・ご
協力を感謝致しますと共に、
本年の皆様の「ご多幸をお祈り
いたします。

昨年を振り返って

昨年は正月早々に能登半島
地震が起きました。災害対策
に対して再度認識を高める為
に、5月には三多摩腎疾患治
療医学会災害対策委員長の尾田
高志先生を講師に「三多摩地
域の災害対策学習会」をおこ
なしました。

7月には「正会員会議」を
開催し、奮闘している患者会
の報告を聞き、励みになる会

となりました。

個人会員さんにはアンケー
トを実施し、現状と意見・希
望を把握できました。

通年での「患者会支援活動」
として電話やメールで連絡を
とり、患者会主催の総会・講
演会等にも多摩ブロック理事
が参加してきました。

2025年の目標

今年も学習会・正会員会議
・交流会を通じて会員皆様の
励みになる活動を続けていき
ます。ぜひご参加ください。
更に「会員拡大活動」とし
て、患者会と連絡を取り合い、
透析施設への訪問も試みます。
支援すべきことを明確にし、

3月学習交流会のご案内

○日時…3月2日(日)

午後1時半～3時半

○場所…国立駅前くにたち・

こくぶんじ市民プラザ

○内容…学習会「災害手帳活
用術」と交流会

皆様のお役に立てるよう、多
摩ブロック理事一同努めてい
きたいと思います。

23区副ブロック長

三好 かおり

新年あけましておめでとう
ございます。昨年途中からブ
ロック長交代した為、いろい
ろご迷惑をお掛けしたこと
思います。

2024年は

昨年は勉強会を兼ねた正会
員会議、個人会員交流会を開
くことができました。

7月7日(日)に正会員会
議を開催し、第1部では「透
析医療費を軽減する国及び東
京都の諸々の制度について」
を戸倉会長に講師となつて頂
き勉強しました。第2部では
正会員さんの苦勞、悩み、患
者会維持の大変さを話し合う
場となりました。

11月3日(日)個人会員交
流会を開催し、ここでも第1
部では「透析医療費を軽減す

る制度」を勉強し、第2部で
は個人会員の皆様のご意見・
質問等の話し合いとなった。

皆様の苦勞が役員の成り手
がない、若い患者さんが会
に入会しない等、特に患者会
維持の大変さを実感した。

2025年は

正会員を中心とした正会員
会議の開催、勉強会、交流会
を行いたいと思っています。

会員の皆様に参加しやすいよ
うな企画をたてたいと思っ
ています。今年、減塩食事療法
講座を当初企画しましたが、
ブロック長交代、その他諸々
の為出来ませんでしたので、
改めて見直しをして、考えて
いきたいと思っています。

患者会活動で困っているこ
と等も気軽に相談できる様、
理事一同取り組んでいきたい
と思っています。

23区ブロックも3月に交流
会を企画したいと思います。

とうじんきょう 活動の まど

2024全腎協
全国代表者シンポジウ
ム及び結成53周年記念
式典

11月16～17日(日)
アワーズイン阪急

11月16日(土)午後2時か
ら、アワーズイン阪急シンゲ
ル館3階のA・B会議室にて、
全国各県の会長・副会長・事
務局長・青年部長がコロナウ
イルス感染症等も考慮し、各
県代表1名が参加。東腎協代
表として三好事務局次長が出
席。全国からは35名(11県腎
協が欠席)の出席でした。

特区チャレンジ助成金総括、
災害に備えての話の後、休憩
を挟んでグループディスカッ
ションに移りました。



グループディスカッション

参加者を9グループに分け
各グループに全腎協理事が入
り、東京はBグループとなり、
新潟県・岐阜県・熊本県、東
京の4県で、全腎協担当者は
池田会長でした。患者会員数
がほぼ同じ位のところでグル
ープ分けがされた。

グループディスカッション
では、会員増強の課題、人材

的な課題、財務的課題等問題
点を出し合った。その問題点
の解決策・案を話し合った。
その結果を、各グループの代
表が発表した。

総括では、どのグループ
も共通しているのが、役員の
資質、会員数の減少が課題と
なっている。対策としてオン
ラインの活用、イベントの実
施、CKD患者への働きかけ、
会員外の収入増目指して頂け
れば。等々意見が出たので、
是非参考にして来年は成功・
失敗を発表出来る様にして頂

きたいと言っていた。午後5
時30分頃終了となった。尚、
戸倉全腎協常務理事はコロナ
ウイルス感染症の為、欠席し
た。

夜は茨城県・長野県・埼玉
県・板橋全腎協事務局長と夕
食会を持ち交流を深めた。
翌、17日(日)午前9時30
分よりツインズ館4階の第一
・第二会議室にて結成53周年
記念式典を行った。

全腎協池田充会長挨拶、黙
禱のあとご来賓の厚生労働省
健康・生活衛生局がん・疾病
対策課 鶴田真也課長、日本
透析医会 秋澤忠男会長、日
本腎臓学会 南学正臣理事長、
日本移植学会 剣持敬副理事
長からご挨拶を頂いた。

続いて長期透析者表彰が行
われ、全国で透析50年を迎え
られた方が9名(東腎協は1
名)、40年の方が136名(東
腎協は13名(機関紙「とうじ
んきょう」No.240号に掲載)
がいらっしやいます。表彰式



表彰式

には二名の方が出席、埼玉県の方（透析40年）と京都府の方（透析40年）、お二人とも元気に来られていた。お二人の方には長期透析の秘訣などをインタビュしました。（会報「ぜんじんきょう」1月号に掲載。）

休憩後、記念講演「腎臓再生医療の現状と課題」を東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科教授 横尾隆先生が講演・質疑応答も入れて1時間半お話しされた。

腎臓移植に関しては、アメリカでもドナーが足りていない。2014年、一つの発見があった事を境に異種移植が激変した。アメリカ、中国、韓国が研究を進めている。しかし日本は研究費も少ないため、同じことは出来ないが違うアプローチから研究を進めている。等の話をされ、12時頃終了した。

小池知事とヒアリング 東京難病団体連絡協議会

12月5日（木）
東京都庁会議室

12月5日（木）16時10分～16時20分、都庁にて、対面での都知事ヒアリングが行われ、東腎協からは横溝担当理事が参加しました。

要望は、「災害発生時に難病患者や長期慢性疾患患者が、継続的に医療・福祉支援が受けられるよう、災害対策（要



配慮者支援）を引き続き進めてください。」等の4点で、要望書を手渡しした後、小池知事や東京都職員の説明を受け、10分間という短い時間でしたが意見交換をすることができました。

東腎協としては、腎臓病患者だけではなく、難病の方も安心して生活できるように協力していきたいと強く思いました。

第69回日本透析医学会 学術集会市民講座 「患者視点の市民講座」 「心地よい安全な透析療法を目指して」

12月1日（日）

冒頭基調講演は東邦大学医療センター大森病院の常喜信彦先生で、同じ透析医療でも医療スタッフと透析患者では向き合い方が違う。医療スタッフは透析患者の生命を第一に考えているが、透析患者は透析終了後の楽しみや予定、透析中の悩みの解決を考えている。これからの透析医療は患者視点に立って進めていきたいと報告がありました。

第一講演「たかがかゆみ、されどかゆみ」透析患者さんの皮膚と心をすこやかにするケアの秘訣」
あかね会大町土屋クリニック内科の高橋直子先生のお話で、かゆみを感じる透析患者は多く、重度になると予後寿

命が短くなる傾向があり、軽視せずにスキンケアをすることが大切。また、かゆみの原因はリンの過剰摂取や透析膜の不適合の場合もあるので、スタッフに相談することも必要というお話でした。

第二講演「つらい下肢つきさようなら！〜予防と対処法〜」

医療法人財団百葉の会上野透析クリニックの松岡由美子先生のお話で、透析前に足をマッサージしておくにつりにくい。適正なドライウエイトになっているか？過度の体重増加や水分摂取もつる原因になるので自己管理も大事だというお話でした。



第三講演「透析でも旅に出よう！〜海外旅行への招待〜」

ハノイフレンチホスピタル

の久保峻先生のお話で、海外での透析技術も向上し日本製の機器も多く使われるようになり、安全な透析が受けられるようになった。お勧めは台湾、ハワイ、オーストラリア。「一般社団法人旅行透析」で海外透析のアドバイスをしてくれる。費用は海外療養還付金制度で帰国後還付されるというお話でした。

特別講演「今後の日本を展望する」
評論家・著述業で透析歴18年の伊藤道宏先生のお話で幕を閉じました

江戸川腎友さつき会

研修旅行

11月10日(日)

地域腎友会の江戸川区腎友さつき会の研修旅行に昨年に続き参加しました。参加者は25名のバス旅行となりました。

令和6年11月10日、雨が予想されていたが、日中く

もりで傘をさすことはありませんでした。

朝8時には、例年通り参加者の皆さんが江戸川区船堀駅近くの三菱UFJ銀行前に集合し点呼をとった上でバスに乗車しました。

予定通り8時30分に出発し、戸倉振一会長の挨拶と宗像聡之氏から今日一日の行程説明があり、バスガイドさん、女性添乗員さんの挨拶と注意、お話がありました。

バスは平井大橋から首都高速中央環状線に乗り、混雑もなく、スムーズな流れの中を9時30分には高坂サービスエリアで20分の小休止。9時50分に出発して、東松山インターで高速を降り、10時20分には最初の目的地、東秩父村和紙の里(秩父郡東秩父村)に到着しました。ここで和紙作りに参加する人と隣り合っている道の駅で買い物する人と分かれて行動しました。

東秩父村和紙の里は小川和

紙発祥の地で、和紙作りの体験に参加したのは戸倉会長初め7名でした。工房の中に入ると、ここで働く人から説明を受け和紙のサイズはハガキと色紙のものがありません。職人さんの介助を受けながら紙を漉き、漉いた紙の上に各自選んだ花、草、木の葉を載せて作業は終わりました。作り上げた和紙は後日配達されて来ました。

11時30分、道の駅を出発。程なく昼食場所である割烹料理二葉に到着。ここは幕末明治の政治家山岡鉄舟と縁が深く、創業270余年、日本5大名飯忠七(ちゅうしち)めしと銘打っているところでした。

13時出発。15分程で2番目の目的地松岡酒造に到着。松岡酒造の若い会長さんから松岡酒造の由来と酒造りの説明を口授され、試飲となりました。秩父は石灰岩の産地で、水は硬水であること、また埼

玉県は全国4位の造り酒屋が多い所という事を知りました。

14時出発。15時には最後の目的地の川越に到着。夕暮れ近くになりました。街のメイン通りは評判通り若い人の買い物姿が多く、バス通りに人が溢れる程の混雑ぶりでした。ここで1時間程散策や買い物をして、時計台には寄りませんでした。16時出発、帰途へ。途中三芳パーキングに寄り（16時30分）、16時55分出発。予定通り18時に出発点の船堀駅に到着しました。お疲れ様でした。

今回も初体験あり、初めて知る事もありのバス旅行となりました。怪我する人もいなく、バスの時間に遅れる人もいなく無事に終わりました。ありがとうございました。

野口忠男

難病・慢性疾患全国フォーラム2024

としま区民センター多目的ホールとWEBにて

11月30日（土）午後12時より主催者挨拶から始まり、第一部は「患者・家族の声」と題して膠原病、ALS患者等の代表6患者会団体の方が登壇した。

休憩を挟んで来賓挨拶の後、第二部はパネルディスカッションで「難病・慢性疾患患者の就労課題について」を大学の名誉教授、厚生労働省の課長が2名、支援機構研究員、日本財団の方々5名がディスカッション及び質疑応答に答えていた。閉会挨拶があり、3時閉会となった。

参加者は会場とオンラインを合わせて200名を超していた。東腎協からの参加は、横溝副会長（東難連理事でもある）と板橋事務局長がWE

Bにて参加した。

吉祥寺あさひ腎友会

「秋の勉強会」
10月27日（日）

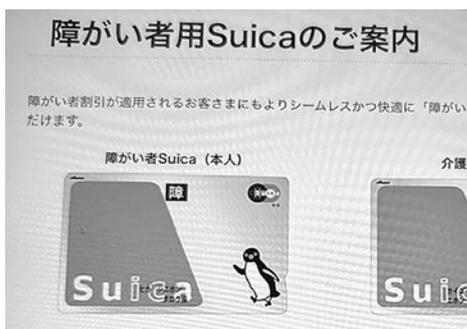
10月27日（日）吉祥寺あさひ腎友会の「秋の勉強会」（秋の旅行キャンペーン）が開催されました。「ひとはこや」というカフェでおいしいお弁当を頂いた後、JRの社員のご指導で「えきねっと」の使い方を教わりました。

○「えきねっと」に登録すれば、みどりの窓口に行かずにスマホやパソコンで新幹線などの予約ができます。更にご利用しいことに障害者割引も適用できます。会員登録↓マイポータルへの利用者登録↓障害者手帳情報の登録という手順をしておくと、割引が利用できます。

○乗車券の障害者割引利用法
介護者同伴の鉄道の乗車は半額になります。（障害者のみ

は片道100キロ以上）小児の切符を2枚（障害者用と介護者用）購入し、駅員がいる改札に障害者手帳を提示します。改札を出る時も同様です。毎回この手順をするのが煩わしいという方には、「障害者Suica」がお勧めです。「障害者Suica」は障害者用と介護者用があり、事前に購入しておけば、通常の改札を簡単に通れます。

慣れないスマホの操作も丁寧に教えて頂き、新しい発見もあり、有益な勉強会でした。



「災害手帳」改訂版が完成しました

東腎協災害対策委員会

東腎協災害対策委員会では、今年度当初より「災害手帳」の改訂版を作成する準備してきました。全腎協特区チャレンジ助成金（10万円）を利用して、25年ぶりの改訂版を発行することができました。

昨年は元旦に「能登半島地震」が起き、8月には「南海トラフ地震臨時情報」が発令され、9月には台風が迷走し、各地に被害を拡大しました。今や「いつ発生するかわからない災害」が「いつでもどこでも起こりうる災害」となっています。

私たちは様々な状況下においても安全に透析が受けられるように、日頃から防災準備をして、災害対策を心得ておくことが大切です。

この「災害手帳」は、皆さ

んが常時携帯されることで、災害時の不安を少しでも軽減できるように、災害に対しての対応や備えを必要最小限コンパクトに分かりやすく記しています。災害への意識を高めて準備し、災害時には是非お役立てください。



手帳の表紙

清湘会記念講演会

亀戸文化センター

12月15日（日）

12月15日（日）午前10時より

亀戸文化センター（カメリアホール）にて清湘会と清湘会各施設腎友会共催で行われました。戸倉会長、横溝副会長、三好事務局次長が出席しました。約200人入る会

場はほぼ満席になるくらい参加していました。コロナ感染が広まって以来5年ぶりの開催です。

清湘会理事長の星野正信先生の清湘会病院設立の経緯、腎友会の協力等の紹介を交えた挨拶で始まった。

続いて講師の伊藤先生（東海大学腎内分秘代謝内科学客員教授）は「食事と薬で元気な透析生活を」と題して

- ・腎臓の働きと透析
- ・血圧・水分量・食塩
- ・カリウム
- ・カルシウム・リン・PTH
- ・貧血の話

の項目に分けて講演を行った。体重増加量は中1日・中2日の場合での具体的な数値で話をされた。リンに関しても来年（2025年）に出るガイドラインでは上限値が低めに下方修正される可能性があるとの事を話された。質疑応答も交えて約1時間行われた。東腎協戸倉会長の挨拶、新

江東橋クリニック腎友会の金井信憲会長（東腎協理事）の挨拶で11時30分に終了した。

江戸川区区政功労者表彰

タワーホール船堀にて

10月28日（月） 江戸川区

から東腎協の戸倉振一会長をはじめ50名・6団体の方々が表彰された。長年にわたり区政に貢献し、区民の生活と文化の向上に尽くされた方の功績をたたえて表彰が行われた。



「青い鳥郵便はがき」 の無償配布知っていますか？



前号の秋号では青い鳥はがきについて、配布対象、受付期間、配布するはがきの種類、配布枚数、お申出方法、配布方法について、ご紹介させていただきましたが、今回は2024年度に会員の皆さまよりご寄付をいただきましたはがきについて東腎協事務局では様々なものに交換し、ご利用しました詳細についてご紹介をさせていただきます。会員の皆さまよりいただきました2024年度のはがきのご寄付枚数は12月現在で（63円はがき）1,807枚で金額に換算すると113,841円です。今年様々な用途でご利用しましたはがき枚数は1,614枚（62円はがき1,85枚を含む）で金額に換算すると101,497円です。

た。発送件数は約640件で主な使用用途につきましては全腎協や東腎協ホームページからの資料請求や電話での資料請求依頼などの東腎協入会案内資料の送付や、各患者会への組織拡大キャンペーン進呈品の送付や国会請願署名のご案内資料の送付などにレターパックライトとの交換に活用し、機関誌とうじんきょうの夏号や冬号での暑中見舞い名刺広告や年賀名刺広告の企画案内を賛助会員さまや各患者会へのご案内に活用し、正会員への一斉発送物の資料送付や総会資料の送付、ほぼ毎月開催の理事会案内の資料送付にも120円〜180円切手などと交換してご利用しました。また全腎協からの就労調査協力アンケート依頼など（12月）の個人会員さまへのご案内などに110円切手と交換し、12月に新しく作成しました災害手帳の各患者会への送付についてのご案内には

63円はがきと金額不足分の22円分の切手と交換するなど（個人会員さまへの災害手帳送付につきましては2025年1月発行の機関誌と同封予定）今紹介しましたご利用方法は一部ですが様々な用途で皆様よりいただきましたはがきを東腎協の財政の一助としてご利用させていただきますました。現在事務局のはがきの在庫は（2023年度以前よりご寄付いただいたはがきの在庫数）3,984枚で今後も東腎協事務局の財政の一助として活用させていただきます。また余りました年賀はがきや書き損じのはがきなどもご寄付いただけましたら幸いです。

12月現在

2024年寄付数	1,807
2024年使用数	1,614
在庫	3,984

東腎協からのお願い

東腎協の活動財源は、一般会員会費、賛助会員会費、広告収入、寄付金から成り立っています。しかし、会員さんの高齢化や後継者不足などから、東腎協の会員数は減少の一途を辿り、その結果、会費収入も大幅に減少し、最近5年間で約350万円（全腎協会費を除く）の減収となって、2024年度予算は約300万円の赤字となっています。現在は過去の備蓄で何とか運営していますが、会員さんへの郵送費や従来の事業も見直す時期にきています。会員さんには、今までの無償配布をご利用したことがない会員の皆様も積極的にこの制度を活用し、ご本人が利用しない場合には、東腎協事務局にご寄付いただきましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



明けましておめでとうございいます

二〇二五年一月

NPO法人東京腎臓病協議会

- 会長 戸倉 振一
- 副会長 須賀 春美
- 同 横溝久美子
- 同 古暮 宏
- 事務局長 板橋 俊司
- 事務局次長 三好かおり
- 理事 大友 晴雄
- 同 岡田 和友
- 同 金井 信憲
- 同 小林 正和
- 同 清水 陽介
- 同 須藤 幸子
- 同 成田 哲也
- 同 野口 忠男
- 同 松本 茂利
- 同 依田 滋
- 同 酒井 豊
- 同 金子 智
- 同 宿野部武志
- 相談役
- 監事 村越 京子

社会福祉法人 樹会「透析者人居できます」

特別養護老人ホーム 大井苑

理事長 富家 隆樹

〒356-0005
埼玉県ふじみ野市大井武蔵野1277-1
☎049(262)8686
FAX049(256)5300

医療法人社団 大坪会

三軒茶屋病院

院長 大坪 由里子

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-21-5
☎03(3410)7321

社会医療法人社団 健生会

すながわ相互診療所

所長 小泉 博史

〒190-0002
東京都立川市幸町5丁目9番2号
☎042(538)1502

医療法人社団 光靖会

井口泌尿器科 亀有

理事長 井口 靖浩
院長 荒川 創一

〒125-0061
東京都葛飾区亀有3-7-7サンセリテ鞆子
3階3号室
☎03(3838)8721
FAX03(3838)8723

医療法人財団

きよせ旭が丘記念病院

理事長 高木 由利

〒204-0002
東京都清瀬市旭が丘1-6-19-15
☎042(491)2121
FAX042(491)6653

医療法人社団

菊川橋クリニックス

院長 古川 猛

〒130-0024
東京都墨田区菊川2-11-1
☎03(5600)2222
FAX03(5600)0805

特定医療法人 清湘会

清湘会記念病院

〒136-0071
東京都江東区亀戸2丁目17番24号
☎03(3636)2301
FAX03(3636)2309

医療法人財団 健康文化会

小豆沢病院

院長 一瀬 隆広

〒174-1850
東京都板橋区小豆沢一丁目六番八号
☎03(3139)6611
FAX03(3139)6611

社会福祉法人 むつみ会

春陽苑にここクリニックス

理事長 青山 一雄

〒331-0068
埼玉県さいたま市西区飯田新田91-1
TEL・FAX048(621)1125

医療法人社団 秀佑会

東海病院

院長 江本 秀斗

〒176-0023
東京都練馬区中村北2丁目10番11号
☎03(3999)1131
FAX03(3999)7027

腎クリニックス高野台

院長 和田 貴彦

〒177-0033
東京都練馬区高野台1丁目3番7号NFプラザII3階
☎03(5910)3121
FAX03(5910)3123

新小岩クリニックス

西尾 信一郎

〒124-0023
東京都葛飾区東新小岩5-20-22
☎03(3694)5621
FAX03(3694)5628



明けましておめでとぅございませす

二〇二五年一月

<p>新小岩クリニックス船堀 院長 武田 之彦</p> <p>〒134-0091 東京都江戸川区船堀4-4-24 ☎03(36888) 9901 FAX03(36888) 9973</p>	<p>新中野透析クリニックス 理事長 津田 信次 スタッフ一同</p> <p>〒164-0012 東京都中野区本町 3丁目23番3号新中野AMIビル1階 ☎03(3370) 8111 FAX03(3370) 8129</p>	<p>亀戸畠山クリニックス 院長 畠山 卓弥</p> <p>〒136-0071 東京都江東区亀戸2-42-5 亀戸クリニックスファーム4階 ☎・FAX03(6885) 3341</p>	<p>医療法人社団 菅沼会 人工透析・夜間透析・在宅透析・美容・再生医療 腎内科クリニックス世田谷 理事長・院長 菅沼 信也</p> <p>〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4丁目21番14号 ☎03(5969) 4976 FAX03(5969) 4970</p>
<p>医療法人社団 晴仁会 立川北口駅前クリニックス 理事長 檜垣 昌夫 院長 石原 理裕</p> <p>〒190-0012 東京都立川市曙町 1丁目31番2号遠藤創造ビル3階 ☎042(523) 2299 FAX042(523) 2400</p>	<p>幸町腎クリニックス 院長 渡辺賀寿雄</p> <p>〒190-0004 東京都立川市柏町4丁目1番1号 ☎042(536) 3099 FAX042(536) 3269</p>	<p>医療法人社団 春口クリニックス 飯田橋春口クリニックス 院長 春口 洋昭</p> <p>〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3丁目9-3 SKプラザ2F ☎03(5215) 1515 FAX03(5215) 1519</p>	<p>南青山内科クリニックス 院長 鈴木 孝子</p> <p>〒107-0062 東京都港区南青山 7-8-8-1101 ☎・FAX03(6805) 1836</p>
<p>医療法人社団 やよい会 北千住東口腎クリニックス 院長 大森 容子</p> <p>〒120-0002 東京都足立区千住旭町 9-16 ☎03-5284-5101</p>	<p>あやせ駅前腎クリニックス 院長 榎本 美穂</p> <p>〒120-0005 東京都足立区綾瀬 3丁目21番18号 ☎03(5697) 8281 FAX03(5697) 8282</p>	<p>医療法人伯鳳会 東京曳舟病院 病院長 山本 保博</p> <p>〒131-0032 東京都墨田区東向島2丁目27-1 ☎03-5655-1120 FAX03-5655-1121</p>	<p>医療法人社団 松岳会 東武練馬クリニックス 院長 目良 純一郎</p> <p>〒175-0083 東京都板橋区徳丸3-11-2 ☎03(5922) 3530 FAX03(5399) 6880</p>
<p>医療法人社団 心施会 理事長 杉崎 健太郎</p> <p>☎042(366) 8909 FAX042(334) 2601</p>	<p>府中腎クリニックス 院長 篠村 裕之</p> <p>〒183-0055 東京都府中市府中町1-8-1 第7三ツ木ビル6F・7F ☎042(366) 8909</p>	<p>南大沢パオレ腎クリニックス 院長 松野 裕樹</p> <p>〒192-0364 東京都八王子市南大沢2-2パオレ5F ☎042(677) 4477</p>	<p>八王子東町クリニックス 院長 小俣 百世</p> <p>〒192-0082 東京都八王子市東町 7-6 ☎042(646) 6996 ダヴィンチ八王子7F・8F</p>
<p>平山城址腎クリニックス 院長 杉崎 健太郎</p> <p>〒191-0043 東京都日野市平山 5-38-11 平山城址公園駅前ビル ☎042(599) 2311</p>			



明けましておめでとうございいます

二〇二五年一月

<p>医療法人社団 長尽会</p> <p>練馬桜台クリニックス</p> <p>理事長 永野 正史</p> <p>〒176-0012 東京都練馬区豊玉北4丁目11番9号 ☎03(5999)0723 FAX03(5999)0823</p>	<p>医療法人社団 長尽会</p> <p>長久保病院</p> <p>立川腎と内科・三和クリニックス</p> <p>理事長 桑原 勝孝</p> <p>〒186-0011 東京都国立市谷保6907番地の1 ☎042(571)2211 FAX042(571)2288</p>	<p>株式会社 教宣文化社</p> <p>代表取締役 成瀬 大輔</p> <p>〒359-0012 埼玉県所沢市坂之下794 ☎04(2944)4323 FAX04(2946)0118</p> <p>医療法人社団 清光会</p> <p>葉山湘南国際村シニアライフセンター</p> <p>理事長 横山 志郎</p> <p>〒240-0107 神奈川県横須賀市湘南国際村1-5-3 ☎046(855)5250</p>	<p>医療法人社団 心施会</p> <p>あかつき印刷株式会社</p> <p>代表取締役社長 大久保 豊</p> <p>〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4の25の2 APビル ☎03(3497)0531 FAX03(3497)0043</p>
<p>医療法人社団 心施会</p> <p>平山腎友会 一同</p> <p>京王線平山城址公園駅前 東京都日野市平山5-38-1 ☎042(599)2311</p>	<p>エルピス株式会社</p> <p>常務取締役 堀江 好美</p> <p>〒532-0011 大阪市淀川区西中島4丁目6-29 第3ユヤマビル201 ☎06(6100)5010 FAX06(6100)5020</p>	<p>ベータ食品株式会社</p> <p>代表取締役 芥川 哲</p> <p>〒531-0076 大阪府北区大淀中1-16-10 高石ビル5階 ☎0800-111-3211 FAX0120-989-831</p>	<p>扶桑薬品工業株式会社</p> <p>東京第一支店</p> <p>執行役員支店長 田島 潔</p> <p>〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2丁目4番5号 ☎03(5203)7101 FAX03(5203)7088</p>
<p>医療法人社団 心施会</p> <p>新江東橋クリニック腎友会</p> <p>会長 金井 信憲 副会長 石川 仁司 会計 上松 一郎 正会員 金井 信憲 監査 隠岐 登 他会員一同</p> <p>〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-7-13 ☎03(5637)6920</p>	<p>株式会社 東京在宅サービス</p> <p>代表取締役 中野宏次郎</p> <p>〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目5番4号 YKBマイクガーデン201 ☎03(3354)0341 FAX03(3354)0373</p>	<p>読者の皆様</p> <p>新年あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願ひ申しあげます</p> <p>吉祥寺あさひ腎友会</p> <p>会員一同</p> <p>吉祥寺あさひ病院・吉祥寺クリニック内</p> <p>医療法人社団 心施会</p> <p>八王子東町クリニックス桑の実会 一同</p> <p>JR八王子駅前通り ダビンチビル7-8F ☎042(646)6996</p>	<p>謹賀新年</p> <p>清湘会記念病院腎友会</p> <p>会長 野口 忠男 他会員一同</p> <p>〒136-0071 東京都江東区亀戸2丁目17番24号 ☎03(3636)2301</p>
<p>謹賀新年</p> <p>清湘会東砂病院腎友会</p> <p>会長代行 野口 忠男 他会員一同</p> <p>〒135-0074 東京都江東区東砂7丁目17番9号 ☎03(6666)6591</p>	<p>謹賀新年</p> <p>新江東橋クリニック腎友会</p> <p>会長 金井 信憲 副会長 石川 仁司 会計 上松 一郎 正会員 金井 信憲 監査 隠岐 登 他会員一同</p> <p>〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-7-13 ☎03(5637)6920</p>	<p>謹賀新年</p> <p>扶桑薬品工業株式会社</p> <p>東京第一支店</p> <p>執行役員支店長 田島 潔</p> <p>〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2丁目4番5号 ☎03(5203)7101 FAX03(5203)7088</p>	<p>医療法人社団 心施会</p> <p>あかつき印刷株式会社</p> <p>代表取締役社長 大久保 豊</p> <p>〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4の25の2 APビル ☎03(3497)0531 FAX03(3497)0043</p>



明けましておめでとぅございませす

<p>江戸川区腎友さつき会 会長 戸倉 振一 〒134-0008 東京都江戸川区南葛西1丁目5番1号 ☎03(5658)0757</p>	<p>腎内科クリニック世田谷患者友の会 会長 古暮 宏 〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4-21-14 ☎03(5969)4976 FAX03(5969)4970</p>	<p>柳原腎クリニック 健腎会 会長 永井 昌平 〒120-0023 東京都足立区千住曙町4番16号 ☎03(3888)2707 FAX03(3888)7729</p>	<p>きよせ旭が丘記念病院腎友会 会長 山下 賢 副会長 宮本 弘之 監査 細田貴代美 〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘1-26-1 ☎042(491)2121 FAX042(491)6654</p>
<p>西クリニックひまわりの会 会員一同 〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-1-10 西クリニック内</p>	<p>高松医院 腎友会 会長 三好 かおり 〒179-0075 練馬区高松六-四-二十三 医療法人 社団蒼生会 高松医院内 医療法人社団 博樹会</p>	<p>謹賀新年 菊川橋クリニック腎友会 会員一同 〒130-0024 東京都墨田区菊川2-11-1 ☎03(5600)2222</p>	<p>森山友の会 会長 岸里 悟 他会員一同 〒134-0088 東京都江戸川区西葛西7丁目12番7号 社会医療法人社団森山医会 森山脳神経センター病院透析センター内 ☎03(3675)1211</p>
<p>新小岩クリニック患者友の会 会員一同 新小岩 〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩5-20-22 ☎03(3694)5621 FAX03(3694)5628 船堀 〒134-0091 東京都江戸川区船堀4-4-24 ☎03(3688)9901 FAX03(3688)9973</p>	<p>日野市透析患者災害ネットワーク 準備会 世話人 (日野) 板橋 俊司 (平山) 岡田 和友 (豊田) 矢野 茂 (高幡) 田中 克幸 (百草) 富張 理子</p>	<p>日野腎友会 (日野・豊田・高幡・百草) 会長 板橋 俊司 副会長 栗木美智子 (日野) 世話人 長田由紀子 (日野) 世話人 樋渡 恭子 (百草) 世話人 富張 理子 (高幡) 世話人 田中 克幸 住所 日野市本町3丁目11番地1 ☎042(584)6621</p>	<p>医療法人社団 博樹会</p>



特定非営利活動法人 東京腎臓病協議会 賛助会員入会のお願い

1972年(昭和47年)11月19日、東京都腎臓病協議会(現、特定非営利活動法人東京腎臓病協議会)を結成しました。結成から52年を経過し、透析医療も格段に進歩し、50年を迎えている透析患者さんもうらっしゃいます。

その一方で社会保障制度、医療費制度の削減が社会問題となっており、莫大な費用を要する透析医療も安心してはられない状況です。これからも医療機関、各企業、患者団体と結束して活動することが大変重要と考えます。

私どもの「命と暮らし」を守る活動に賛同いただければ是非、賛助会員として団体の活動を支えていただきたく心よりお願い致します。

記

賛助会員会費：個人年額 5,000円、団体年額 1口 10,000円/1口以上

※年1回名刺広告を機関誌「とうじんきょう」夏号に掲載させていただきます。

二〇二五年一月

(2025年 No248冬号)

長期透析(透析歴30年以上)会員のお名前

おめでとうございます。これからもがんばって!

対象:透析導入日1994年(平成6年)1月1日~12月31日

会員名	導入年月日	患者会名
✿ 鶴田 米子	1992年6月	八王子東町クリニック桑の実会
✿ 内田 利男	1994年1月14日	個人会員
✿ 飯田 敏夫	1994年4月19日	個人会員
✿ 上松 一郎	1994年6月16日	新江東橋クリニック腎友会
✿ 新谷 民子	1992年4月24日	個人会員
✿ 假屋 博美	1994年1月31日	昭島腎クリニックひまわり会
✿ 森本 辰美	1994年6月9日	小笠原クリニック友の会
✿ 河端 正治	1994年4月24日	清湘会記念病院腎友会

*対象導入年月日以外の方は今まで一度も掲載されていない方です



 特定非営利活動法人 東京腎臓病協議会
(NPO 東腎協)

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-14-8 中野ビル702号室 TEL03-3944-4048 FAX03-5940-9556
<http://www.toujin.jp/> E-mail info@toujin.jp

事務局から

ご寄付御礼

扶桑薬品工業(株) 東京第一支店様
ご寄付ありがとうございますございました。

青い鳥ハガキご寄付御礼

《患者会》新江東橋クリニックス腎友会《個人》富沢裕子
※敬称略

たくさんのご寄付ありがとうございました。

今後の活動予定

1月18日(土)～1月19日(日)
全腎協定時理事会
1月26日(日)
東腎協第202回理事会
2月8日(土)
東腎協三役会(WEB:15:00)
2月9日(日)
東難連理事会

2月22日(土)
第103回関東ブロック会議
(WEB)

2月23日(日)
東腎協第203回理事会(会場は全腎協事務局+WEB)
(予定)

3月2日(日)
23区ブロック、多摩ブロック
学习交流会

3月8日(土)～3月9日(日)
全腎協第44回理事会

3月6日(木)or11日(火)
東腎協三役会(WEB:15:00)

3月9日(日)
東難連理事会

3月13日(木)
第54次国会請願(議員会館大会議室予定)

3月16日(日)
第36回腎臓病を考える都民の集い(都議会議事堂1階都民ホール)

3月23日(日)
東腎協第204回理事会

10月中旬頃～1月31日(金)
第54次国会請願署名運動

編集後記

○毎年のことだが、私たちに冬休み、正月の実感はありません。世間では9連休といえども、せいぜい元日を休日にして変則週3回透析はやすむことはない。従って多くの人は海外旅行も国内旅行もなかなか難しいのが実態だ。

新年早々、全腎協池田会長の計報に接した。富山県腎協会長も務められ、さらに全腎協という全国患者会の集合体の会長の心労たるや計りしれない。私も理事・事務局長として2年間務めてきたが、東腎協事務局長とは比べようもない精神的疲労を感じている。来月には後期高齢者75歳を迎える。患者会活動に携わって20年近く、そろそろ自分にとっての「患者会」とは何だったのか総括してみたい。全腎協も役員改選だが、不慮の

事態もあって身を引くわけにいきそうにない。75歳までと思っていたが77歳まで付き合うことになるのか。エンジンの掛かりが最近悪くなっている気が重い。

東腎協も世代交代の時期にきているが、なかなか新しい役員がでてこない。この間、会員減少に加えてコロナ騒ぎがあつて、患者会活動の活性化の機会が相当失われた。「楽しさ」「意義」「必要性」を肌で感じる機会が少なくなっているのだろう。私たちが活動始めた頃は、仲間と知り合い勉強することやバーベキューやお花見、忘年会など楽しい交流もたくさん企画した。最近「意味がない」「苦勞したくない」など、消極的な意見が多くなっているのだろうか。

会員減少、組織の弱体化はさらに進んでいる。少しでも歯止めのかきつけかけをつかめる一年にできればと願いたい。

〈事務局雑感〉

(板橋)

○明けましておめでとうござ
います。

と、昨年は元旦の能登地震
でお祝い気分では無くなった。
能登は豪雨災害、再びの地震
と大変な一年でした。まだま
だ復興という段階ではないか
もしれない。東北地震の時、
どう支援を行えばいいの自分
からなかったが、旅行するこ
とが支援の一助になることを
聞いて東北各県に旅行したこ
とを思い出した。何も出来な
いが、旅行だったら出来るの
で、計画をしたい。

輪島には社員旅行で。夜中、
波の音で眠れなかった事を思
い出す。近年ではコロナ前に
加賀温泉にも行った。熱い温
度のお湯だった。あまりの熱
さに湯船を走り抜けた事を思
い出す。脳卒中の後遺症が残
っているが加賀に足を運んで
みたいと思っている。石川県
の皆さんには、今年は何事も

なく過ぎてほしいと願ってい
る。

(三好)

○幸多き新春をお迎えのこと
と存じます。昨年は大変お世
話になり誠にありがとうございました
しました。皆様のご健康とご
多幸をお祈りいたします。
本年も何卒よろしくお願
い申し上げます。

6月20日に事務局を巣鴨に
越してから半年が経たった。

前の事務所の三分の一程の面
積に。窓が多く、光が差し込
む明るい事務所だが、夏は暑
く、冷房を2度にしても、暑
さに耐えながらの日々でした。
話は変わるが、地元立川市

では立飛グループ創立100
周年記念事業として立川立飛
歌舞伎特別公演が11月21日
(木)から24日(日)におこ

なわれ、歌舞伎界を代表する
名だたる俳優が多数出演し、
立川独自の特別な舞台(会場
は立川ステージガーデン)が
開催された。今回は片岡愛之
助さんが初出演し、市川中車

さん、中村壱太郎さんなど昨
年(昨年初開催)に引き続き
舞台に立った。また、100
周年特別講演を記念して、11
月17日(日)にサンサンロー
ド【お練り】も行われ、たく
さんの観客が。近くの高島屋
でも開催を記念して歌舞伎衣
装を展示しており、外国人の
方も珍しそうに記念写真を撮
っていました。

また、立川では新たな冬の
風物詩として11月1日(金)
から1月13日(月)までサン
サンロードを中心とした【2
024たちかわイルミネーシ
ョン星の並木】が開催されて
おり、約60万球のイルミネー
ションで彩られた光り輝く空
間が広がりました。

正月になり、例年、高尾山
に初詣に行くのですが、今年
は近所の諏訪神社に行き、屋
台で好物のじゃがバターを購
入し朝から高カロリーを摂取。
去年は能登半島地震、翌日
に海保機の衝突事項とシヨッ

キングな出来事が続けて起き
正月気分ではなかった。今年
は年末に蓄えたテレビ番組の
録画を視聴しながら正月料理
を堪能しました。(松山)



表紙の言葉
(日野市豊田)

若宮神社は、武蔵野の雑木林
の一角の集落より一段小高いと
ころに創建され「古来より子供
の守り神」として崇められ、三
百七十年の時の流れと共に豊田
の地域を見守り続けています。

九月の例大祭は神輿が町内を
練り歩き、境内では「奉納子供
すもう大会」が、子どもの健全
育成と地域住民の新たな交流の
場をその目的として開催され、
これまで四十五年にわたり続い
ています。

年末年始の初詣には、多くの
参拝者が訪れ賑わいを見せてい
ます。

腎臓病を
考える 都民の集い

慢性腎臓病患者は全国で2000万人とも言われ、新たな国民病として正しい知識と治療法の理解が求められています。慢性腎臓病（CKD）は、「末期腎不全」のみならず心筋梗塞や脳梗塞など心血管疾患の原因でもあることもわかってきております。健康診断を積極的に受け、腎臓病を早期に発見して治療すれば透析導入することなく、または透析導入を遅らせることができます。

講演Ⅰ 60分

慢性腎臓病(CKD)を
良く知ろう ～腎臓を守るために～

講師 尾田 高志 先生
東京医科大学八王子医療センター副院長
腎臓病センター 腎臓病内科 教授
三多摩腎疾患治療医会 災害対策委員長



講演Ⅱ 60分

腎臓を守る食事療法のコツ
～我流は危険！？～

講師 井上 茜 先生
東京医科大学八王子医療センター栄養管理科
腎臓病療養指導士、糖尿病療養指導士
西東京糖尿病療養指導士、NST専門療法士



事前に質問用紙に
質問事項を書いて頂き、
先生方に回答して
いただきます。

令和7年

日時

2025年 3月16日(日)
13:00～16:00 (開場12:30)

場所

都議会議事堂
1階 都民ホール
〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1

入場無料

定員200名様 事前申込み不要

お問合せ NPO法人東京腎臓病協議会

☎:03-3944-4048 Fax:03-5940-9556 E-mail:info@toujin.jp



交通
JR新宿駅西口 徒歩10分
都営地下鉄大江戸線都庁前 徒歩5分
JR新宿駅西口巡回バスあり都議会議事堂(又は都庁第一本庁舎)下車

透析と介護 ふたつの安心

介護施設への
 入所が困難だった
 透析患者の方に
 グッド・ニュース

画期的な試みとして注目される介護施設内での人工透析

社会福祉法人むつみ会春陽苑は、介護老人福祉施設に医療施設「にこにこクリニック」を開設しており、介護と医療の両方から高齢者の方に安心をご提供しています。特に介護が必要な高齢の透析患者の方に、入所して介護を受けながら、人工透析室で、透析を受け生涯を過ごしていただくという画期的な取り組みは、全国でも例を見ないので、現在注目を集めています。

また、24時間スタッフによる医療・介護の管理の下透析を行った結果、通常の透析患者に比べて状態がとても良好で、特養での管理の下で行う透析の効果があることもわかってきました。春陽苑は、介護が必要な透析患者の方にも、出来る限り透析を継続していただき、生きる喜びと輝きを持ち続けていただくことを願っています。

人工透析機を
 常設!



▶透析室



▶個室

▶春陽苑全景

▶診察室

施設概要

- 介護老人福祉施設
 入所定員:124床(ショートステイ含む)
 事業内容:【入所事業】介護老人福祉施設 短期入所生活介護
 【在宅事業】通所介護・在宅介護支援センター・居宅介護支援事業
- 介護老人保健施設 Lilyナーシングルーム
 入所定員:100床(ショートステイ含む)
 事業内容:【入所事業】介護老人保健施設 短期入所療養介護
 【在宅事業】通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション
- 桜木支所
 事業内容:居宅介護支援事業・地域包括支援センター 訪問介護
- 春陽苑にこにこクリニック
 診療科目:内科・脳神経外科・腎臓内科・人工透析内科・皮膚科・精神科

入所料金 入所される方の生活状況により利用料が異なります。

参考事例:介護老人福祉施設春陽苑へ入所 要介護3(1割負担)の場合 (単位:円)

	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
多床室	45,630	59,430	67,230	104,580

※保険単位数を基に少数を含む計算を行う為、実際の金額と誤差が生じる場合があります。 ※この他に電化製品を利用される方は1点につき、電気代が1日50円(30日で1,500円)がかかります。
 ※上記の金額には、食費、日用品費、居住費、及び、体制加算等が含まれています。 ※医療費は別にかかります。

アクセス



●JR大宮駅西口から西武バス「ららぽーと富士見行」または「所沢駅東口行」で「治水橋堤防」下車、徒歩3分
 ●JR埼京線指扇駅よりタクシーにて10分
 ●東武東上線 上福岡駅よりタクシーにて13分
 ●お車の場合
 新大宮バイパス→三橋(3)の交差点を左折→県道56号線に入る→治水橋を越え→目の信号を左折し荒川沿いの建物

【見学随時募集中】
 相談
 ダイヤル **TEL:048-625-0707**
 〒331-0068 埼玉県さいたま市西区飯田新田91-1 FAX:048-625-0755

ホームページのお問い合わせフォームもご利用ください。
<http://www.mutsumikai.net>

透析 春陽苑 で 検索!